

# 利用者のタイミングに合わせた訪室による 職員の負担軽減

都留市立介護老人保健施設つる

# 事業所概要



施設名	都留市立介護老人保健施設「つる」
施設種別	介護老人保健施設
定員	100人
開設日	1990年5月1日
所在地	〒402-0056 山梨県都留市つる5-1-55

# 伴走支援に応募した動機

## 応募動機

「テクノロジー導入による業務効率化を図り、利用者一人一人と向き合う丁寧なケア」  
を実現できるようにと、準備を進めてきた



導入検討していた機器について、昨年度のセミナー参加を経て  
当施設の現状には合っていないことを確信し、再度検討していくことにした



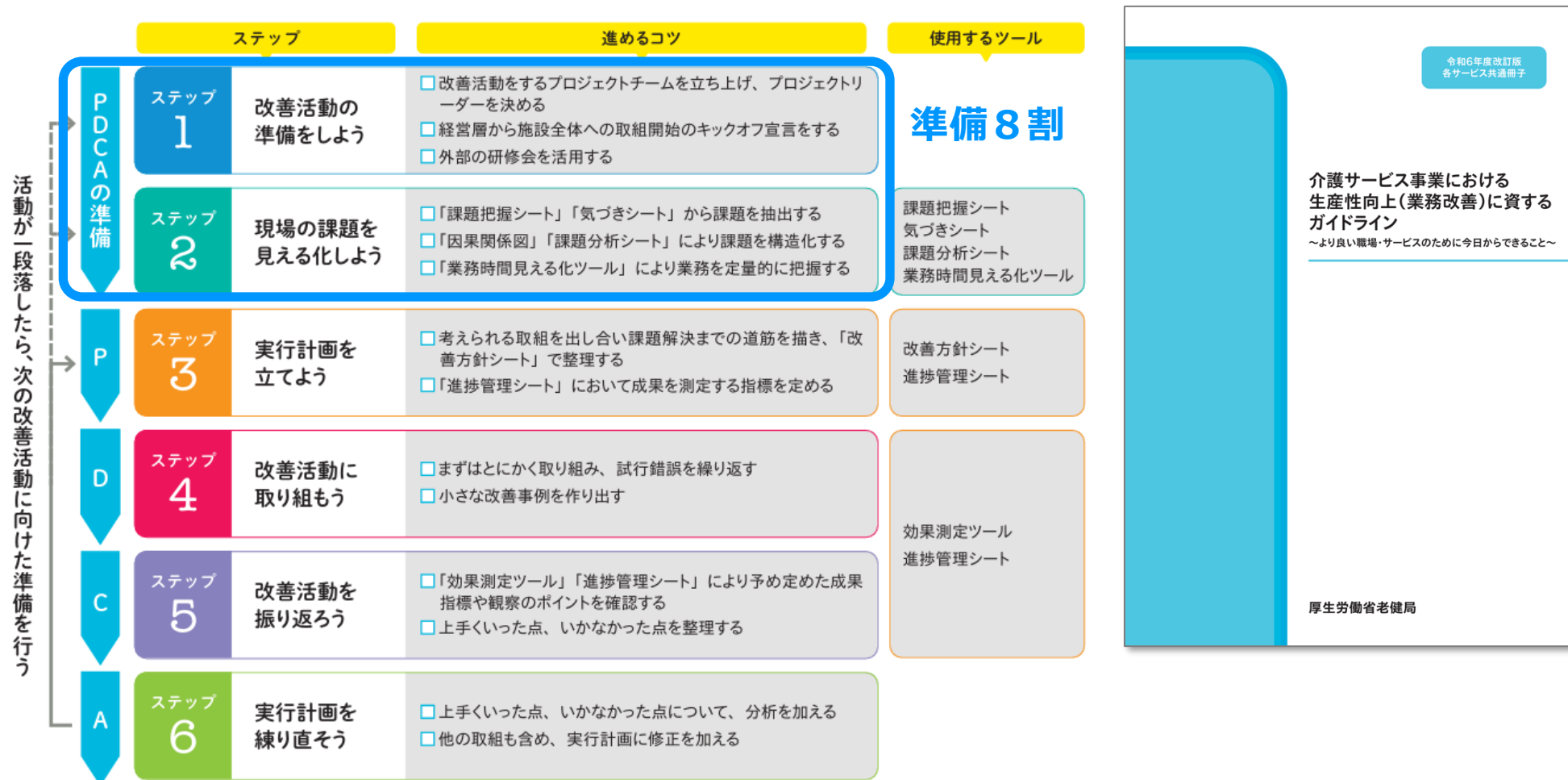
死角の多い施設構造のため、見守りや情報伝達に課題を感じており  
適切な機器導入を進めるため、助言を得ながら効率的に取り組むを進めたいと考え応募した



取組によって、各職員の時間的・精神的ゆとりが生みだされ、  
利用者に対するより丁寧なケアが提供できる体制の構築につながっていくと考えている

# 取組み方針

今回は、厚生労働省が2025年8月に改訂した『生産性向上ガイドライン』（共通冊子）の **ステップ 1～6** に従って取組みを進めた（特に、「準備 8割」を重要視した）



# ステップ 1



令和6年度改訂版  
各サービス共通冊子

## 介護サービス事業における 生産性向上(業務改善)に資する ガイドライン

～より良い職場・サービスのために今日からできること～

厚生労働省老健局

# ステップ1：改善活動の準備をしよう

## 実施したこと

生産性向上の取組みを推進するにあたって、**プロジェクトチームを結成した**

### <職員と共有した内容>

「利用者への丁寧なケアを実践する」という目標に向け、  
現場の意見を反映した改善活動を行う

「現場のムリ・ムダ・ムラ」を解決し、  
業務負担の軽減と職員の気持ちに余力を作り、  
利用者に対してより丁寧なケアを実践すると共に、  
職員が成長できる環境を作っていきます！

皆様のご協力をお願いいたします！

生産性向上委員会「令和7年度の生産性向上機器の導入計画について」

令和7年度の取組みについて①

1. 「テクノロジーを活用した業務効率化モデル事業」の実施

令和7年7月14日に老健「つる」がモデル事業対象の事業所に選定されました。

(株)TRAPE (トラビ) の支援を受けながら、モデル事業を進めます

地域における業務改善に取り組むモデル事業所の取組み(改善活動)のステップ

株式会社TRAPEの伴走支援

- ✔ チャットやWeb会議ツールを使って常にリーダーに寄り添い(サポート) (トラビを随時活用)。
- ✔ モデル事業所の業務に合わせた伴走支援をカスタマイズ！
- ✔ 各事業所が目指すしい体験・成果を生み出す
- ✔ 生産性向上の取組み方法(型)を確立してもらう
- ✔ 伴走支援後は、自律的に取組みができる状況にする

6 実行計画を確立する

5 改善活動を行う

4 改善活動に開始する

3 実行計画を立てる

2 現場の課題を洗い出し、課題を特定する

1 現場課題の抽出を行う

事業所の成功体験・自律性を生み出す伴走支援を実施

成果報告

(山梨県のモデル事業実績)

- 令和6年度 介護老人福祉施設トリアス 地域密着型特別養護老人ホームおひめ
- 令和5年度 介護老人保健施設フルール甲府 特別養護老人ホーム田高荘
- 令和4年度 介護老人保健施設フルールわかみ のの里介護老人保健施設旭ヶ丘

昨年度までの取組みを踏まえつつ、

- ① みんなの意見を活動に取り入れること
- ② みんなが導入機器を活用できること
- ③ 結果、みんなが働きやすさを実感できること

を念頭に改善活動を進めていきます！

キックオフ宣言（全体周知）の場面

# ステップ2



令和6年度改訂版  
各サービス共通冊子

介護サービス事業における  
生産性向上(業務改善)に資する  
ガイドライン  
～より良い職場・サービスのために今日からできること～

厚生労働省老健局

# ステップ2：現場の課題を見える化しよう

## 実施したこと

現場の課題を職員間で共有することを目的にアンケートを実施し、課題の可視化を行った

- アンケート結果（現場の声）から絞れた課題の中から「見守り業務」、「利用者情報の共有」2つに絞りこみ職員と対話を行なった

業務				テクノロジー
職場の環境整備	業務の仕組み	個別業務	情報共有	ロボット・ICTの導入
1 職場の方針が明確でない	6 1日の業務の流れが明確でない	10 送迎に課題がある	20 利用者情報の共有ができていない	23 導入手順・進め方が分からない
2 物・書類の整理整頓ができていない	7 業務の役割分担が明確でない	11 起床・就寝に課題がある	21 日常のコミュニケーションが円滑でない	24 どの業務に導入すればよいかに悩んでいる
3 情報・データの整理整頓ができていない	8 業務の基準・ルールが明確でない	12 食事に課題がある	22 意見交換がうまくいかない	25 最適な機種・サービスの選定に悩んでいる
4 介護機器点検/メンテナンスができていない	9 業務の手順・マニュアルがない/活用できていない	13 入浴に課題がある		
5 職員研修ができていない		14 排泄に課題がある		
		15 見守りに課題がある		
		16 レク・リハに課題がある		
		17 記録・書類に課題がある		
		18 相談・プランに課題がある		
		19 その他に課題がある		
				26 導入済だが活用できていない
				27 成果を把握・検証ができていない
				28 データ活用ができていない

「生産性向上くん®」より

# ステップ2：現場の課題を見える化しよう

## 対話から見えてきたこと

### 対話から明確になった、具体的な課題

#### ● 訪室が必要な時に訪室できてない

- 足元側から降りる（認知症の方）など、センサーマットの**設置場所や検知範囲が機能していない**ケースがある
- 訪室した際、**間違いや足が着いただけのコール**があり、 unnecessary 対応が発生している
- 訪室したが「行かなくてもよかった」状況があり、**訪室前の利用者情報が不足**している

#### ● 精神的・身体的負担感

- **時間に追われ職員に余裕がなく**、丁寧な対応ができない
- 職員の中には日頃からイライラしている人もおり、**もっと心に余裕を持ち落ち着いてケア**にあたりたい

職員での対話の場面

# ステップ3



令和6年度改訂版  
各サービス共通冊子

介護サービス事業における  
生産性向上(業務改善)に資する  
ガイドライン  
～より良い職場・サービスのために今日からできること～

厚生労働省老健局

# ステップ3：実行計画を立てよう

## 実施したこと

ありたい姿を実現するためにアプローチ（仮説）を立てた

### ありたい姿

- 職員の心身の負担を軽減し、職員の余力を作る
- 利用者に向き合える働きやすい環境を整える

### 課題

- **必要な訪室が検知されないことや、不必要な訪室が生じている**
- **職員の精神的・身体的負担がある**

### アプローチ

- 見守りカメラを新規導入
  - **カメラ確認基準作成**
    - カメラ設置の目的認識の共有
    - 統一した認識でのカメラ運用

# ステップ3：実行計画を立てよう

## 仮説の検証（アクションを起こす前に現状のデータを測定）

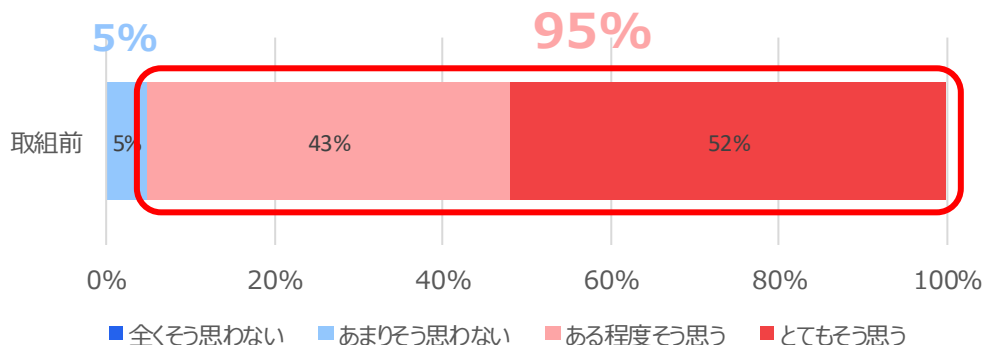
### 【訪室が必要な時に訪室できていない】

- 利用者に合わせた見守り対応ができていない

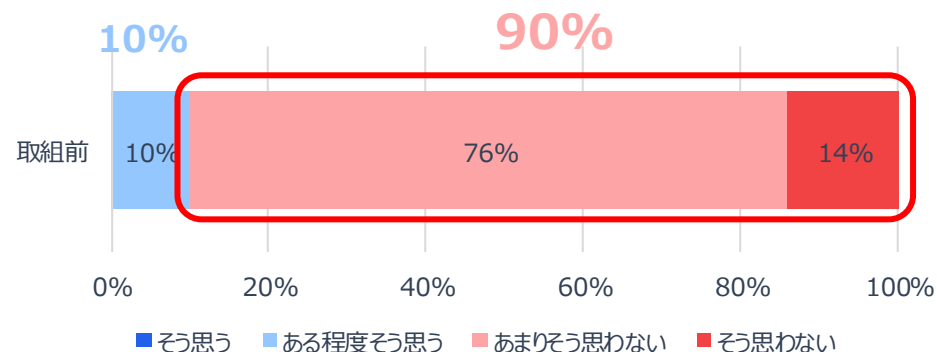
### 【職員の精神的・身体的負担】

- 時間に追われて心に余裕が持てていない

利用者が介助を必要とするタイミングに合わせて訪室・対応ができていないことがありますか？



常に心に余裕を持って働けていますか？



# ステップ4



令和6年度改訂版  
各サービス共通冊子

## 介護サービス事業における 生産性向上(業務改善)に資する ガイドライン

～より良い職場・サービスのために今日からできること～

厚生労働省老健局

# ステップ4：改善活動に取り組もう

## 導入を決めたテクノロジー

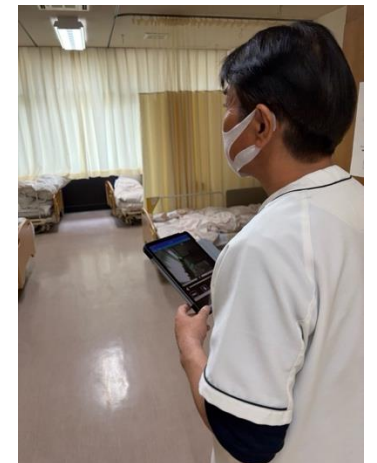
### ●商品名：みまもりCUBE Plus

### ●選定理由

- ① フック1つで取り付けられるため、壁や天井など簡単に移設できること  
⇒ ベッドからの離床だけでなく、居室の入退室や居室外での行動など確認・検知したい内容に応じて設置場所を簡単に変更できる
- ② Wi-Fi接続方式のカメラであること  
⇒ 配線工事が不要なため、設置時のベッドコントロールが不要
- ③ 利用者様がストレスを感じないデザインであること  
⇒ 「センサーマットを踏むと音が出て職員が来る」と理解している利用者が「忙しい職員に悪い」とセンサーマットを乗り越えたり、利用者自身でセンサーをベッド下にしまうことで、センサーが機能しない場面があったので利用者に気を遣わせずに安全に過ごしてもらえるデザインにした



設置されている見守りカメラ



タブレットで映像を見ている様子

# ステップ4：改善活動に取り組もう

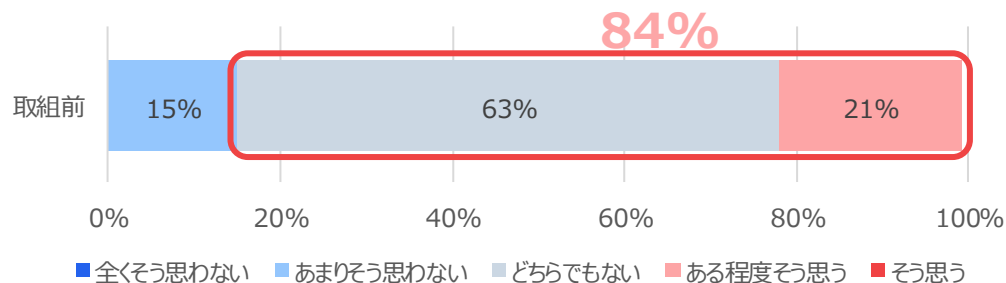
## 実施したこと

### カメラ設置について

#### ● 設置基準・ルールを明確にした

- ①利用者基本情報（氏名・部屋・ベッドNo）
- ②確認したい利用者情報（時間・場所・場面）
- ③カメラの通知設定（要否・タイミング）
- ④評価期間（カメラ設置期間・評価結果）

### 事前アンケート結果より 「業務上の判断基準・ルールが明確でないと思いますか？」



カンファレンスシート【見守りカメラ用】

1. 対象者情報

ご利用者名	様	
部屋名・ベッド番号		
カンファレンス日時	年	月 日

2. 見守り内容の検討

(1) カメラで確認したい利用者様の状況

項目	記入例	記入欄
いつの様子を見たい？(時間)	就寝時間帯	
どこの様子を見たい？(場所)	自室	
何を見たい？(場面)	一人でベッドから立ち上がるとうるとき	

(2) 見守りカメラの通知設定

項目	記入欄
検知通知の要否	<input type="checkbox"/> 不要 ・ <input type="checkbox"/> 必要 (通知タイミングを下欄に記入)
通知タイミング⇒	

(3) 検知通知があった時の対応

<input type="checkbox"/> 検知通知があったら直ちに訪室	
<input type="checkbox"/> カメラ映像確認後、必要に応じて訪室	
※訪室基準⇒	【例】ベッド上で立ち上がるため体勢変更が認められたとき
<input type="checkbox"/> カメラ確認のみ	

3. 上記の見守りの評価期間

評価期間 (カメラ設置期間)	
評価結果	

### カメラ設置基準記載シート

# ステップ4：改善活動に取り組もう

## 実施したこと

### カンファレンスシート【見守りカメラ用】

#### 1. 対象者情報

ご利用者名	様
部屋名・ベッド番号	302②
カンファレンス日時	R8年 / 月 23日

#### 2. 見守り内容の検討

##### (1) カメラで確認したい利用者様の状況

項目	記入例	記入欄
いつの様子を見たい？(時間)	就寝時間帯	夜間
どこの様子を見たい？(場所)	自室	自室
何を見たい？(場面)	一人でベッドから立ち上がろうとするとき	トイレ・起床時

##### (2) 見守りカメラの通知設定

項目	記入欄
検知通知の要否	<input type="checkbox"/> 不要 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 必要 (通知タイミングを下欄に記入) 【例】ベッドフレームの外に手や足が出た時
通知タイミング⇒	ベッド柵に手足がかけた時

##### (3) 検知通知があった時の対応

<input type="checkbox"/> 検知通知があったら直ちに訪室
<input checked="" type="checkbox"/> カメラ映像確認後、必要に応じて訪室
【例】ベッド上で立ち上がるため体勢変更が認められたとき
※訪室基準⇒
トイレ・起床時、体勢が不安定時
<input type="checkbox"/> カメラ確認のみ

#### 3. 上記の見守りの評価期間

評価期間 (カメラ設置期間)	次回継続カンファレンスまで
評価結果	

### カンファレンスシート【見守りカメラ用】

#### 1. 対象者情報

ご利用者名	様
部屋名・ベッド番号	302④
カンファレンス日時	R8年 2月 5日

#### 2. 見守り内容の検討

##### (1) カメラで確認したい利用者様の状況

項目	記入例	記入欄
いつの様子を見たい？(時間)	就寝時間帯	終日
どこの様子を見たい？(場所)	自室	自室
何を見たい？(場面)	一人でベッドから立ち上がろうとするとき	歩行動作

##### (2) 見守りカメラの通知設定

項目	記入欄
検知通知の要否	<input type="checkbox"/> 不要 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 必要 (通知タイミングを下欄に記入) 【例】ベッドフレームの外に手や足が出た時
通知タイミング⇒	居室への入室時

##### (3) 検知通知があった時の対応

<input type="checkbox"/> 検知通知があったら直ちに訪室
<input checked="" type="checkbox"/> カメラ映像確認後、必要に応じて訪室
【例】ベッド上で立ち上がるため体勢変更が認められたとき
※訪室基準⇒
危険動作が認められたとき
<input type="checkbox"/> カメラ確認のみ

#### 3. 上記の見守りの評価期間

評価期間 (カメラ設置期間)	次回継続カンファレンスまで
評価結果	

### カンファレンスシート【見守りカメラ用】

#### 1. 対象者情報

ご利用者名	様
部屋名・ベッド番号	202②
カンファレンス日時	R8年 2月 20日

#### 2. 見守り内容の検討

##### (1) カメラで確認したい利用者様の状況

項目	記入例	記入欄
いつの様子を見たい？(時間)	就寝時間帯	終日
どこの様子を見たい？(場所)	自室	自室
何を見たい？(場面)	一人でベッドから立ち上がろうとするとき	車椅子移動時

##### (2) 見守りカメラの通知設定

項目	記入欄
検知通知の要否	<input type="checkbox"/> 不要 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 必要 (通知タイミングを下欄に記入) 【例】ベッドフレームの外に手や足が出た時
通知タイミング⇒	移動動作時

##### (3) 検知通知があった時の対応

<input checked="" type="checkbox"/> 検知通知があったら直ちに訪室
<input type="checkbox"/> カメラ映像確認後、必要に応じて訪室
【例】ベッド上で立ち上がるため体勢変更が認められたとき
※訪室基準⇒
車椅子やベッドからの移動動作が認められたとき
<input type="checkbox"/> カメラ確認のみ

#### 3. 上記の見守りの評価期間

評価期間 (カメラ設置期間)	入所中 (2ヵ月退所まで)
評価結果	

実際に使用しているカンファレンスシート

# ステップ5



令和6年度改訂版  
各サービス共通冊子

## 介護サービス事業における 生産性向上(業務改善)に資する ガイドライン

～より良い職場・サービスのために今日からできること～

厚生労働省老健局

# ステップ5：改善活動を振り返ろう 成果①

利用者が介助を必要とするタイミングで  
訪室・対応できていないことがありますか？

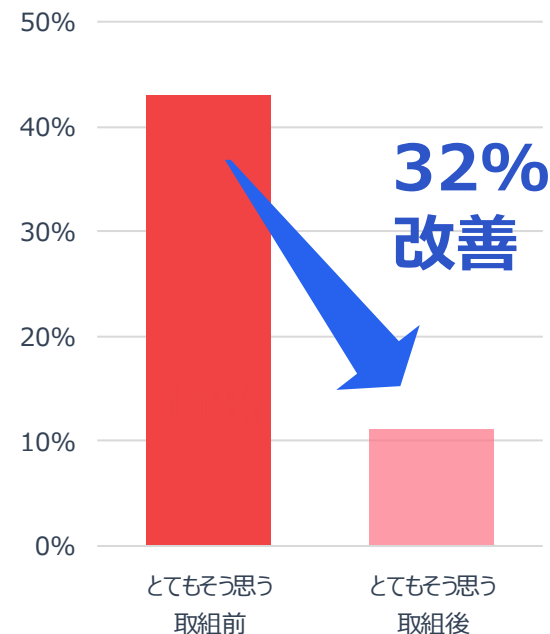
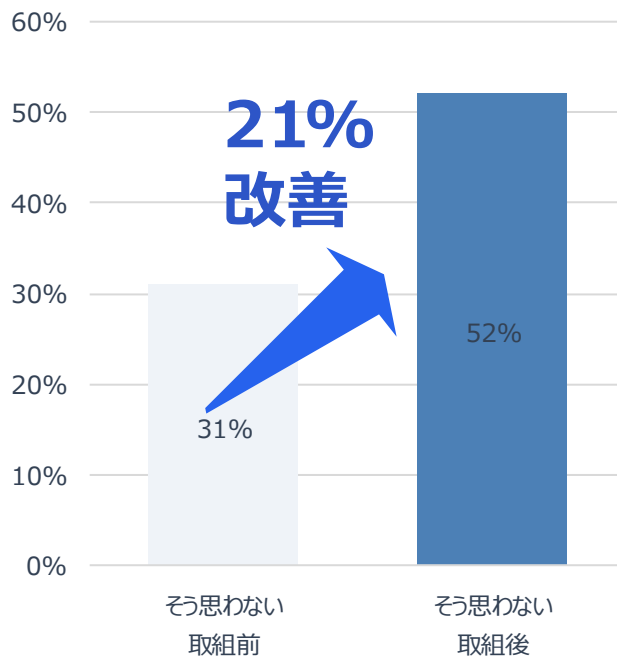
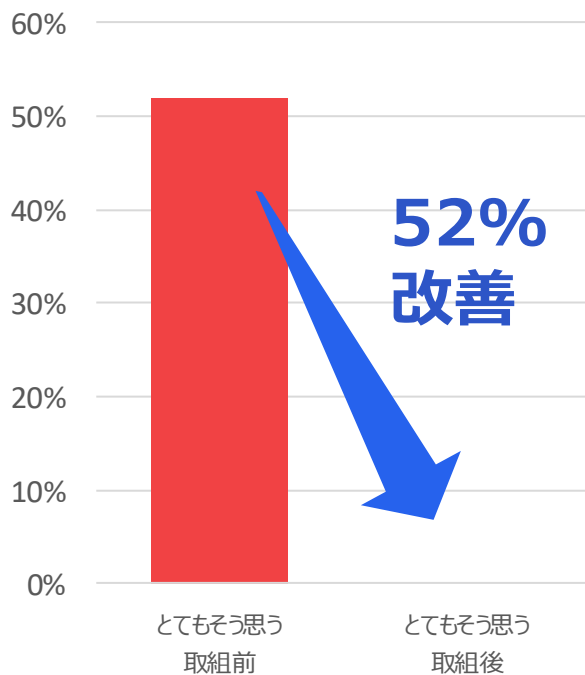
業務手順・マニュアルがない/活用でき  
ていないと思いますか？

コールが同時に鳴った際、対応すべき  
優先順位に迷うことは多いですか？

必要な場面で訪室対応  
できるようになってきた！

ルールを現場で運用できるようになってきた！

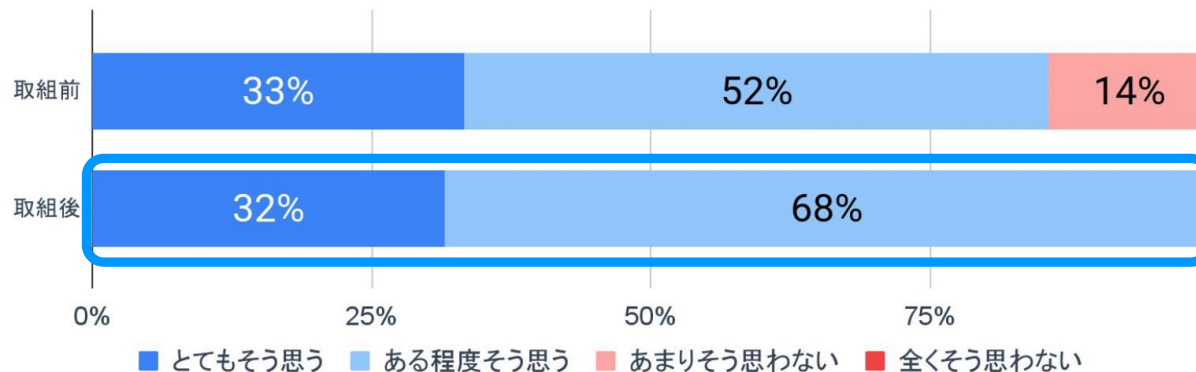
基準・ルールの運用によって優先順位の迷いが減った！



## ステップ5：改善活動を振り返ろう 成果②

テクノロジーは業務改善に効果的に使えるものだと思いますか？

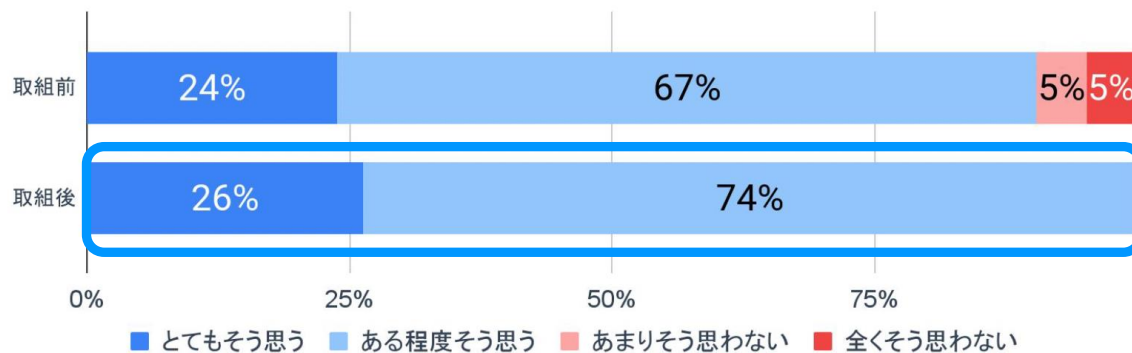
- テクノロジーは業務改善に効果的と思っている人が100%になった



全職員がテクノロジーは「業務改善」に効果的だと思うように

テクノロジーは職員の働きやすさや働きがいを向上させるのに効果的に使えるものだと思いますか？

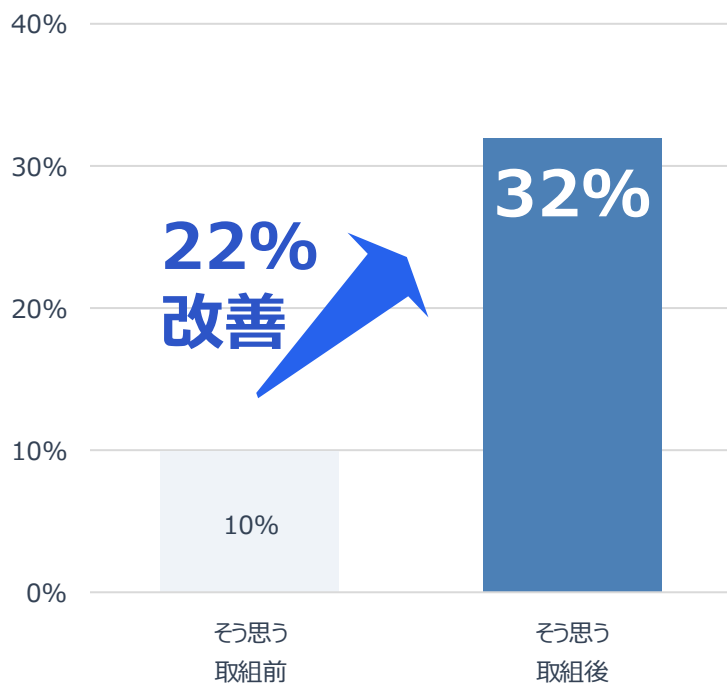
- 全職員がテクノロジーは働きやすさや働きがいに効果的と思っている



全職員がテクノロジーは「働きやすさ」「働きがい」に効果的だと思うように

## ステップ5：改善活動を振り返ろう 成果③

常に心に余裕を持って働けていますか？  
(精神的負担)



### 心に余裕を持って 働いている職員が増加

#### エピソード

- これまで事故の発生原因については想像に基づいて再発防止策を検討せざるを得なかったが、事実が把握できるようになったことで、有効な対策を講じることが可能となり、職員の不安の軽減にもつながってきている。

## ステップ5：改善活動を振り返ろう 成果④

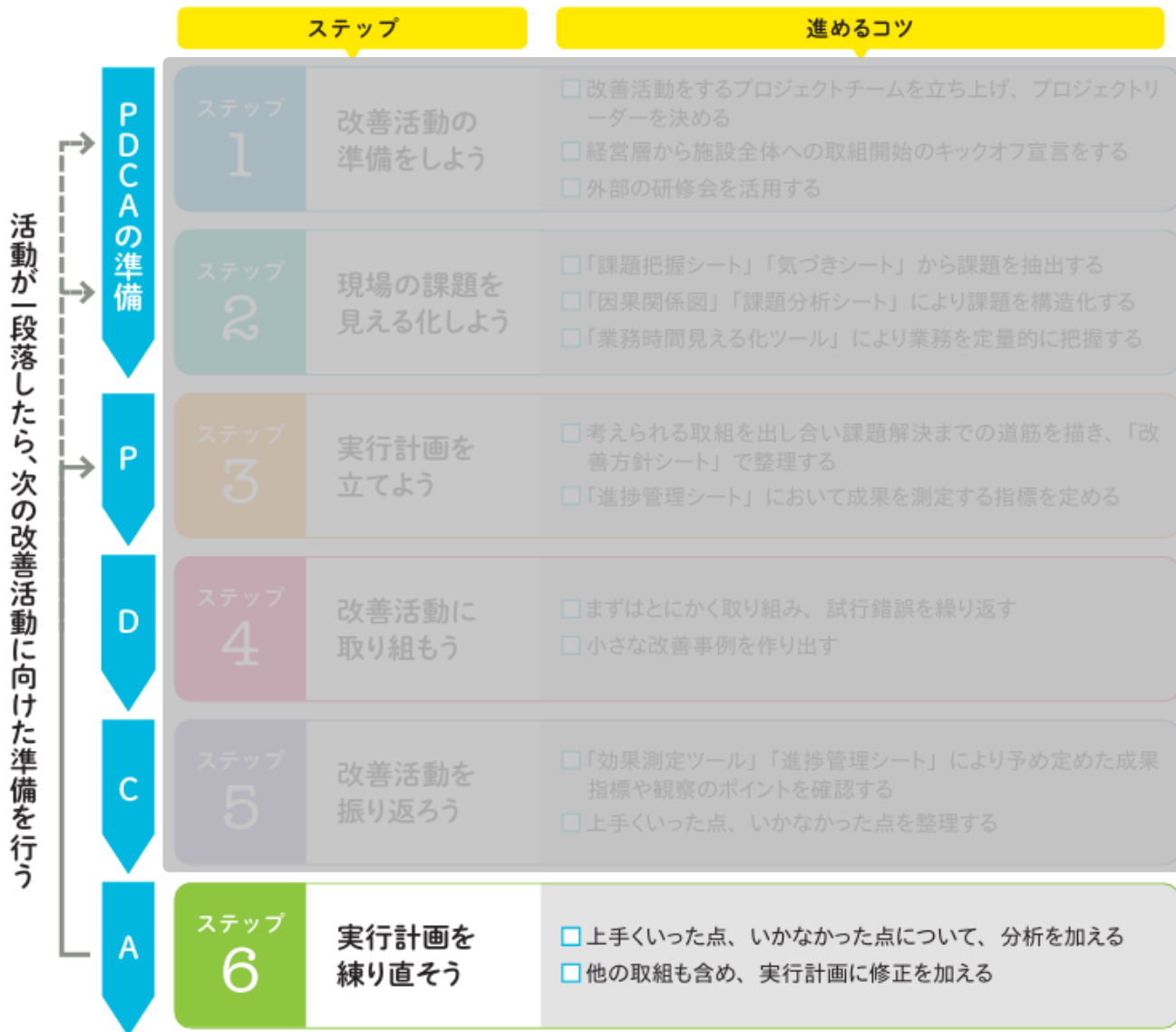
### 現場から見た成果

カメラ映像によって、これまで分からなかった居室内での行動や状態が把握できるようになり  
その情報をカンファレンスで個別ケアのブラッシュアップに繋げることができた

深夜帯にベッド上激しく体動されている状況を確認し訪室した結果  
トイレ誘導・排泄ケアをすることができ、ベッド上での失禁を予防することができた

カメラ映像を見た際に一人でトイレに行った後、部屋に戻るときに歩行器を持っていなかった  
ことに気づき入室直後に移動・移乗支援ができた  
(トイレに残された歩行器も回収し、それが他の利用者の事故原因になることを防ぐことができた)

# ステップ6



令和6年度改訂版  
各サービス共通冊子

## 介護サービス事業における生産性向上(業務改善)に資するガイドライン

～より良い職場・サービスのために今日からできること～

厚生労働省老健局

# ステップ6：実行計画を練りなおそう

## 新たな課題とありたい姿に向けた次なる取り組み

### 新たな課題と残された課題

カメラ設置基準・ルールを明確にしたことで、利用者様と関わるタイミング（訪室・対応）の認識と判断基準の共有化を前進させることができた

一定の負担軽減を図ることができた一方、業務の効率化によって生じた余力を丁寧なケアに繋げるという目標達成はまだ道半ば

引き続き機器の運用や基準ルールの周知、業務のブラッシュアップが必要

また、日中の業務（特に入浴・排泄）についてはまだ課題感が残っている

### 次なる取り組み

運用する中で、わかりにくい箇所があれば、引き続き職員の見解をもとにシートに反映していく

さらにこのシートを共通言語にすることで、経験の浅い職員もアセスメントの考え方を理解できるようになるため、事業所全体の教育・スキルの底上げを図る一助にしていきたい

**「業務効率化を図り、利用者一人一人と向き合う丁寧なケアを実現する」という目標のもと、これからも課題の抽出や整理を進め、その解決方法やその優先度を検討しながら、一つずつ改善活動をすすめていく**

# まとめ

# プロジェクトを通して感じたこと

## プロジェクトを通じて得た学び、感じたこと

- ・ 機器導入とセットで運用基準を作ったことで、共通認識を持って業務にあたれるようになった
- ・ 今までカンファレンスに関わっていない人も、カンファレンスシートがアセスメントの考え方を学ぶきっかけとなり、全職員のレベルアップに繋がると感じている

- ・ 基準に基づいてカメラを運用することで、「うまくいっていること」や「調整が必要なこと」を共通認識にもと見えやすくすることができた
- ・ ポータブルトイレやセンサーマットの位置変更を考えるなど、職員が自らが利用者様に対するケアのブラッシュアップ策を考えられるようになった

# 経営者からのコメント



施設長  
深澤 敏男

当施設では、令和6年度からテクノロジーを活用した業務改善に向けた準備を開始し、本年度「テクノロジーを活動した事業効率化モデル施設」に選定いただいたことを機会に、見守りカメラ及びインカムを導入することができました。

今回の機器整備により、職員の働きやすい環境と利用者様が安心して生活いただける環境整備が大きく前進したと感じております。

また、今回の事業を通して生産性向上委員会をはじめとする職員全員が自ら働く環境について見つめ直し、協力しあいながら、「利用者に対する丁寧なケアを実践する」という目標に向けた課題解決プロセスを実践したことも非常に大きな成果であったと思います。

先進的な機器が次々とリリースされていますが、介護サービスの主体はあくまで現場で働く一人ひとりの職員です。

今回の取組を課題解決のモデルケースとして、山積する課題に対する取り組みを前進させ、「利用者様とそのご家族の笑顔あふれる施設」を目指してまいります。

